

朝来市わだやま少年少女オーケストラ 但馬青少年文化奨励賞を受賞

朝来市和田山少年少女オーケストラは、5月13日(土)に県立但馬文教府において但馬芸術文化会議(上田平雄会長)より但馬青少年文化奨励賞を受賞しました。

但馬芸術文化会議は、但馬地方の芸術文化の振興に顕著に貢献した者(団体)を表彰することにより地域の芸術文化の向上発展を図ることを目的に設立された団体です。

わだやま少年少女オーケストラは平成2年に設立。現在、小学生から大学生までの80人が毎週2回(火・土曜)、和田山



公民館を中心に活動しています。

年間の主な行事は年一回の定期演奏会(今年度は第14回)をはじめ、市イベントへの参加、兵庫県交響楽祭への出演、合宿練習等です。

また、オーケストラの出身者で本格的に音楽をめざして大学に進む団員や卒業生も12〜13人と増え、連休や長期休業日には後輩の指導に多くの学生が参加し、オーケストラのレベルアップに大きな役割を果たしています。

人権問題文芸作品 「のじぎく文芸賞」の募集

人権文化の進展と人権課題の解決に寄与する内容で、次に上げる趣旨に沿ったものであれば、題材は自由です。

応募は、9月30日まで。

兵庫県内在住、在学、在勤の方で、インターネット上を含む未発表・未投稿の自作作品に限ります。(字数制限有り)

※詳しくは下記にお問い合わせください。

(財)兵庫県人権啓発協会

TEL 078-242-5355 FAX 078-242-5360

Eメール: info@hyogo-jinken.or.jp



セルポット苗



機械植えの実演

岩津ねぎの定植機の実演

6月11日(日)、物部で岩津ねぎの機械定植の実演会が行なわれ、生産者約20人が参加しました。

岩津ねぎの生産は、これまで機械化が大きな課題となっていました。生産者は毎年7月頃に20センチほどに育った苗を、溝を切った畑に一本一本手で植えており、暑い最中に行われるこの作業が岩津ねぎを生産する上で最も大変な作業といえます。

この定植作業を機械化することで、生産者の負担を軽減し、生産拡大につなげるため、物部地区では機械化推進のための「岩津ねぎセルポット栽培グループ」を設立し、地域農業再生事業を取り入れながら、関係機関と共に研究を重ね、組織的に機械化への取り組みを進めてきました。

今回、実演された機械は、専用の育苗箱(セルポット)で10センチほどに生育した苗を植えつける機械で、セルポットを機械にセットし、歩行の田植機のように一筋ずつねぎの苗を植えていくものです。グループではこの機械を2台導入し、活用されます。

この日は生産者のみなさんが交代で機械を操作しました。生産者は、従来方式に比べ非常に早く、きれいに定植できるので感心していました。

1台約80万円ほどということで、生産者の方は「一度使ってみたいが、専用のセルポットで育った苗しか使えないので苗の育成が大変ではないか」と話されていました。



機械で植えつけられた苗